

中販連

だより

2020
Vol.59

指定生乳生産者団体 中国生乳販売農業協同組合連合会 機関誌



CONTENTS

- 新型コロナウイルス感染症拡大下 管内酪農業への影響について
- 令和2年度生乳取引交渉結果について（生乳受託販売委員会・理事会報告）
- 令和2年度事業計画について（第17回臨時総会報告）
- 乳質検査（配分・依頼）結果配信システムについて（RAKUNYU+（ラクニュウプラス）の概要説明）
 - 令和元年度生乳出荷実績等
 - 事業経過報告

Chugoku Fresh Milk Sales-Agricultural Cooperative Association

新型コロナウイルス感染症拡大下 管内酪農業への影響について

はじめに

昨年12月に中華人民共和国湖北省武漢市から発生したとされる新型コロナウイルスが世界中に蔓延し、各国が講じた感染防止に係る規制措置は人の交流にとどまらず物流の停滞による企業活力の低下、更には今年最大のイベントである東京オリンピックの開催の延期等、経済的損失はリーマンショック以上と言われています。原稿執筆時点（4/20）では世界の感染者数は220万人に到達したとも言われ、日本国内でも日々数百人単位の感染者が発生し、診療現場では医療崩壊の危機が叫ばれています。

国内では、2月27日(木)に急遽、安倍首相が教育現場に対する3月2日(月)からの休校要請により全国の学校給食用牛乳（以下「学乳」）が供給を余儀なくされることとなり、生乳の流通が大混乱に陥りました。

4月に入って春休みが終了しても感染の事態は悪化しており、首相は4月7日には感染拡大が懸念される7都府県（東京都・神奈川・埼玉県・千葉県・大阪府・兵庫県・福岡県）に緊急事態宣言を発出、更に独自に緊急事態を宣言する自治体も出現しました。その内容は不要不急の外出の自粛、外食産業には営業の自粛等、感染原因とされる3密（密集・密閉・密接）の回避を重点とするものでした。学校の休校対応は、3月からの休校措置の継続や4月から再開したものの中旬ごろから再び休校措置への移行等、全国的にはほぼ全域で大型連休明けの5月6日まで休校措置が取られる状況となっています。

※新型コロナウイルス感染症については、酪農現場で感染が確認された場合の対応や事業継続に関する基本的ガイドラインが農林水産省より示されています。当連合会からも集送乳事業や指定団体業務の事業継続等について各県会員に対して案内しております。要点は、体調及び衛生管理などの感染予防に最大限努めて頂き、もしも感染が確認された場合には、保健所並びに所属組合を始めとする関係先に報告のうえ、保健所の指示に従った行動を取って下さい。また、搾乳作業等の事業継続（ヘルパーによる作業の代行等）のためにどういった対応をとれば良いかをご検討いただくと共に、組合とも情報共有を行って下さい。

以下、本誌では新型コロナウイルス禍により学乳供給停止がもたらす生乳需給及び乳価影響等に対する当連合会の対応を中心に報告します。

3月の対応

（1）需給調整について

★3月の配乳計画における学乳分について各指定団体は、通常どおりの授業が行われる前提で乳業各社との配乳調整を行っていました。北海道産生乳も都府県の生産減を補うため一定数量が移入される予定となっていました。ところが、2月27日(木)の午後になり急遽3月2日(月)からの休校要請が発出されたため、各学校から乳業者に3月分の学乳キャンセルの連絡が一斉に入りました。各乳業者は、学校への納品予定日の4～5日前には学乳を製造していることから行き場を失った製品は、ほとんどが廃棄処分となり、当時の混乱の様子は新聞・テレビ等のニュースでも報道されました。

早速、指定団体は3月分配乳計画の見直し作業に取り組むこととなり、学乳分については昨年3月分の生乳供給実績の約23,000 tを新たな要調整量余乳に置き、時間が制約された緊迫状態の中で全国連及び乳業者の緊密な連携の下で処理先の確保に当たりました。中でも3月第1週は、北海道生乳

のキャンセルができないため、都府県生乳は多量のキャンセルの発生を余儀なくされました。CS（クーラーステーション）機能のフル活用により全国的に生乳廃棄することなく急場をしのぐことができました。

★中国管内における昨年3月の学乳向け生乳は約1,500 t の実績に対し、今般の供給停止に伴う管内乳业からのキャンセル乳の集計を行ったところ約1,000 t に達しました。更に、関西に所在する乳业からのキャンセルによる加算も想定されましたが、関西分については、全国連再販による供給のためキャンセル乳の調整は全国連に委託することとしました。中国管内の余乳の行先確保については、加工処理能力のある鳥取県の大山乳业農協、愛媛県の四国乳业、熊本県の弘乳舎に連絡を取り、受け入れ可能な日程と数量の枠取りを行い、処理予定に合わせた輸送体制の再調整を行いました。

加工処理工場の3月の処理状況としては、大山乳业農協では処理余力量の制約から280 t 程度、四国乳业では、四国内の余乳増加により20t、大半の約6割にあたる550 t が弘乳舎における処理となりました。しかしながら、送乳先変更に伴う長距離輸送便の増加は車両不足と人手不足の同時発生、更には域外からも輸送車両の手配をするなど、緊急対応が続く中で輸送経費の増高をもたらすこととなりました。その後に北海道生乳が道内に留め置かれてからは、ある程度落ち着いた需給関係へと変化、他方、消費面では家庭内消費増の後押しもあって3月末が近づくにつれ加工処理に仕向ける生乳は減少しました。

令和1年度の用途別販売実績は表1の通りですが、3月単月では学乳向けが138 t 前年同月比9%とほぼ全面停止に近い実績、これに対し加工向けはこの度の学乳停止分に例年の学乳休み（本来は春休み）の余乳が加わり2,113 t 、前年同月比170.5%の大幅増となりました。

(表1) 令和1年度販売実績（メーカー着乳量で計算）

(単位：t／%)

	上半期計		2月			3月		下半期計		合 計		
		前年対比		前年対比	閏年修正		前年対比		前年対比		前年対比	構成比
販売乳量	135,540	98.3	23,043	107.4	103.7	25,478	104.6	141,050	103.7	276,589	101.0	100.0
鳥 取	29,233	102.9	4,994	106.6	103.0	5,457	103.1	30,415	102.7	59,648	102.8	21.6
島 根	33,078	99.6	5,666	111.1	107.2	6,313	110.6	34,593	106.4	67,671	103.0	24.5
岡 山	44,472	97.2	7,823	109.0	105.2	8,737	106.2	47,832	106.3	92,303	101.7	33.4
広 島	21,352	93.6	3,344	101.3	97.8	3,654	96.8	20,777	97.2	42,129	95.3	15.2
山 口	7,405	96.5	1,216	102.4	98.8	1,316	98.0	7,433	98.5	14,839	97.5	5.4
飲 用 向	90,887	97.8	15,269	110.6	106.8	17,811	109.8	94,164	104.8	185,051	101.2	66.9
学 乳 向	9,605	100.7	2,094	94.6	91.3	138	9.0	10,684	87.7	20,289	93.4	7.3
用 小 計	100,492	98.1	17,363	108.4	104.7	17,949	101.1	104,848	102.8	205,340	100.4	74.2
途 酸酵乳向	29,826	98.6	4,278	103.5	99.9	5,027	103.3	27,804	104.0	57,631	101.1	20.8
生クリーム向	1,720	91.3	350	105.5	101.9	360	78.6	2,119	98.2	3,838	95.0	1.4
チーズ向	201	97.7	28	98.1	94.7	29	96.3	187	101.0	388	99.3	0.1
加 工 向	3,301	109.2	1,025	109.1	105.3	2,113	170.5	6,091	123.7	9,392	118.2	3.4
販売合計	135,540	98.3	23,043	107.4	103.7	25,478	104.6	141,050	103.7	276,589	101.0	100.0

※端数処理により合計不一致箇所あり

(2) 乳価影響

学乳供給停止に伴う加工向けの増加がもたらす乳価への影響について前年3月並みの学乳向け数量約1,500 t の全量が加工処理された場合、基準乳価 (Fat3.5% Snf8.3% 基準) は、両用途の1kgあたり約50円の単価差により1,500 t (1,500,000kg) × 50円 = 75,000,000円の販売金額が減少し、3月の受託乳量約25,000 t でプール計算すると▲75,000,000円 ÷ 25,000 t (25,000,000kg) = ▲3.0円/kg、つまり3.0円/kgの低下となり、昨年4月から学乳を除く飲用向け乳価の値上げにより全生乳換算で3.5円/kg弱の上昇分が約0.5円/kgの上昇にとどまることとなります。

しかしながら3月の販売実績は、折からの増産量が有利販売に貢献したことや関西方面のキャンセル乳が全国連の調整によって業務用殺菌乳という準飲用向け用途で処理されたこともあり、基準乳価は、約2.0円/kg低下の111.2764円/kg (前年同月+1.4313円) となりました。

(3) 国の乳代価格差補助対策

国の緊急対策として需給緩和対策事業が予算組みされ、学乳の供給停止に伴い加工向け数量が増加した場合の乳価下落部分について補助金が交付されることとなり、当連合会の試算では、(加工増加数量874 t ×学乳と加工の単価差約50円/kg) - 加工増加数に係る補給金相当=約36,800,000円の補助金額が想定されます。支払い時期は未定ですが、3月分の受託乳量に基づく乳価差補助金単価は約1.44円/kgに相当します。なお加工増加分の補給金の約0.36円/kgと第4四半期分の補給金を合算した約0.80円/kgが8月内に一括交付予定となっています。

(表2) 令和1年度 基準乳価推移 (成分加算金を含まない)

(単位: t／円／kg)

		上半期計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期計	年度計
2019	受託乳量(t)	135,746	22,799	22,294	23,472	24,146	23,088	25,532	141,332	277,077
	基 準 乳 価	114.5379	115.5945	114.9830	113.2587	113.9162	114.2914	111.2764	113.8304	114.1770
	補給金+集送乳調整金	0.4198	0.4842	0.4842	0.4842	0.7970	0.7970	0.7970	0.6452	0.5348
	合 計 (a)	114.9577	116.0787	115.4672	113.7429	114.7132	115.0885	112.0734	114.4757	114.7118
2018	受託乳量(t)	138,058	22,540	21,734	22,833	23,291	21,503	24,391	136,292	274,350
	基 準 乳 価	111.0596	112.0843	111.9189	110.0356	110.6083	110.9599	109.8451	110.8843	110.9725
	補給金+集送乳調整金	0.3964	0.4421	0.4421	0.4421	0.7056	0.7056	0.7056	0.5759	0.4855
	合 計 (b)	111.4559	112.5264	112.3610	110.4778	111.3139	111.6655	110.5507	111.4602	111.4581
前年との比較(a-b)		3.5018	3.5522	3.1061	3.2651	3.3993	3.4230	1.5228	3.0154	3.2538

※端数処理により合計不一致箇所あり

4月の対応

★4月の需給調整の状況は、3月末時点では予定どおり4月からの学校再開を前提に乳業各社から学乳分も含んだ受け入れ計画を頂き、生産予測数量に基づく配乳調整を行いました。ところが、4月に入り都市部（東京・大阪・福岡等）の感染者の急増を背景に首相は4月7日に7都府県に緊急事態宣言を発出、更には各自治体段階でも外出の自粛・休校措置の延長・外食産業への営業自粛要請等の感染拡大防止への取り組みが始まりました。

中国管内の情勢としては幸いにして4月上旬は、例年どおりに学校が再開される地域が多かったため、学乳供給は概ね予定どおりに行われ、更には、家庭内需要の高まりもあって配乳調整は関西方面からのキャンセル乳に対応する程度で3月当初のような加工向けを発生させることもなく推移しました。一方では消費面で懸念されていた業務用の牛乳乳製品の消費が著しく減少し脱脂粉乳の在庫の累積が需給上の課題に位置付けられました。

4月中旬には、中国管内でも広島、山口、島根県内に集団感染が発生し、特に100人以上に達した広島県では4月15日から連休明けの5月6日までの休校措置が決まり、その後、山口県内、島根県内の主要都市部でも休校措置が発表されました。

中でも、全国に緊急事態宣言に発出された4月16日からは休校措置を行う自治体の拡大により管内でもキャンセル乳は800t超に達し再び調整作業に追われる事態となりました。

★全国的には北海道が都府県からのキャンセルの多発により加工仕向けが急増する中にあって、加工工場における工場内冷蔵施設の保管能力や製造人員の確保が困難となっており、4月中旬以降には処理不可能乳の発生が危惧されています。

また、東日本でも域内の加工処理能力を超える余乳の発生を懸念し、関係者が一丸となって廃棄乳の発生をさせないよう懸命の調整が続けられています。今後は、東日本の余乳処理を西日本（熊本：弘乳舎）で行うような対応も必要になってきており、実行されるならば、当連合会も従来とは異なる需給現象が生ずる可能性があります。

※加工処理とは、主に脱脂粉乳（以下「脱粉」）とバターを製造します。バターは無塩の“流し込み”と言われる20kgのブロックを主体に製造します。家庭用の小口バターは処理能力が落ちるので繁忙期には製造を控えます。バターの保存には冷凍倉庫が必要になり、限られた倉庫でしか扱えませんので保管スペースの問題が発生します。脱粉は、25kgの紙袋で製造され、冷蔵又は常温の保管となります。乳成分の違いで出来高は変わってきますが、100tの生乳で20kgのバターが約230ケース（4.6t）25kg脱粉が330袋（8.3t）程度製造されます。

今後の課題と対応等

★4月の加工数量については、前述の通り東日本の余乳処理状況も絡みますが、現時点では3月よりも少ない発生量を予測しています。

なお、国の学乳供給停止とともに需給緩和対策事業は5月連休明けまで対象期間の延長が決まっていますので加工数量の増加に見合う乳価下落の補てん措置は継続されますが、新型コロナウイルス感染禍に期限は予測できないことから5月連休明け以降においても休校措置が延長された場合には国の補てん措置事業の延長を実現していかなければなりません。

★他方、懸念されるのは生乳需給への影響です。前文記述のとおり外出自粛ムードは牛乳・醸酵乳等の在宅需要を増加させたものの、それを上回る学乳供給停止や屋外（業務用）需要の減少によりバター、脱脂粉乳等の乳製品仕向けが大幅に増加、とりわけ脱脂粉乳の在庫積み増しへの対応が課題として浮上しつつあります。

令和2年度の生乳生産基盤には都府県酪農が悲願とした弱体化への歯止めが見え始めていることから、この勢を止めないためには全国の酪農業関係者が一丸となった消費拡大対策への取り組みが不可避となります。

消費拡大に関しては農水省においても4月21日、江藤農水大臣が新型コロナウイルス感染禍に伴う経済的被害から我が国の酪農を守るために、国民にもう1本牛乳・醸酵乳等の追加購入を呼び掛けるとともに、その運動体として「プラスワンプロジェクト」を立ち上げています。

★以上が学乳供給停止に伴う混乱への対応状況です。今後、需要期までの間は余乳が発生し易い厳しい需給状況が予測されます。

しかし、指定団体には今日まで数次にわたる天変地異等の襲来を受けながらも生乳廃棄の回避を命題に置き指定団体間及び全国連との連携、乳業者の協力、そして行政の支援を得て難局を克服した実績があります。この度もこれまでの実績を糧に難局突破に取り組む所存であります。

酪農家・業界関係者の皆さんへ

新型コロナウイルスの感染拡大で 緊急的な消費拡大が必要です！

令和2年4月16日、緊急事態宣言が全国に拡大されて以降、各自治体による学校の休校措置や外食産業の営業自粛要請等の感染拡大防止対策の影響により生乳需給が急激に緩和しています。

各指定団体・全国連と乳業者は、協力、連携して加工工場での処理体制をフル稼働させて対応にあたっておりますが、影響が長引く場合には、工場の処理能力を上回る余乳の発生が危惧されております。

酪農乳業に関わる全ての皆様による「**プラスワンプロジェクト**」の推進により緊急的な牛乳乳製品の消費拡大をよろしくお願ひいたします！！

令和2年度生乳取引交渉結果の報告について

— 令和2年2月25日生乳受託販売委員会・理事会を開催 —

当連合会では、去る令和2年2月25日に生乳受託販売委員会・理事会を開催し、1) 令和2年度生乳取引交渉、2) 令和2年度生乳販売計画、3) 生乳共販メリットの使途等の上程事項について協議・決定を行いました。このうち、生乳取引交渉については全国の交渉状況も踏まえて、基本乳価は現行価格据え置きをベースとするものの、個別交渉においては取引数量等の条件交渉も絡めてプール乳価の上昇を目指す旨の妥結に向けた方針を決定しました。

1. 乳価交渉の結果について

- (1) 令和元年度の乳価は、期首段階4月から学乳向けを除く飲用向けについて4円/kgの値上げが適用された。乳業側も乳価値上げ原資を含めて川下転嫁を遂行し小売価格は値上げされた。
 - (2) 令和元年10月1日より、消費税の増税が行われ食料品等を除き税率は8%から10%へ引き上げとなった。牛乳乳製品は、軽減税率の対象となり8%に据え置かれた。
- このような消費環境の変化の中で、指定団体は令和2年度の乳価交渉の情勢分析作業に入った。これに対し。乳業側は消費環境の変化を踏まえた消費者の購買動向の見守りを優先すべきとして乳価交渉には消極姿勢を示した。
- (3) 令和2年度乳価交渉に際して、指定団体が要求額の主要根拠とする令和元年度生乳生産費の動向は、期首からの乳価の値上げ及び副産物となる乳用雄子牛価格の高止まり等により、酪農経営環境は安定的な推移を見せた。このため、令和元年11月13日開催の生乳受託販売委員会・理事会においては、次年度の基本乳価は、飲用等向け「現行価格以上」、乳製品向けについては北海道における交渉結果に準ずる、増産基調にある管内生乳の有利販売に努め、実質手取り乳価の上昇に努める交渉方針を決定した。
 - (4) 酪農経営環境に関しては乳業側も良好との見方を示していたが、酪農組織を挙げた増産努力への期待から「据え置き」の反応を示した。

交渉において当連合会は、「現行価格以上」の表現とは言え、前年度の乳価交渉が要求(7円/kg)と決定(4円/kg)の差額を積み残しと位置付け、値上げの意味合いを含んだ申し入れを行ったが、乳業側は、積み残しの考えは無く据え置きに固執した。

全国的な交渉状況の中で「現行価格以上」と「据え置き」の主張の温度差が次第に縮小した。そして、飲用向け乳価交渉に最も影響力のある関東生乳販連が、年明けの1月中旬に据え置きによる妥結を公表し相場が形成されることとなった。

また、乳製品向け乳価(バター、脱粉、チーズ、生クリーム等)については、ホクレンが1月下旬に据え置きによる決着を公表した。

- (5) 当連合会は全国的な妥結への潮流を踏まえて、2月25日の生乳受託販売委員会・理事会を開催し、大手乳業の据え置き要請について、止む無しとして受け入れることを決定すると共に、増産生乳並びに明治岡山工場閉鎖に伴う取引中止数量(多元販売可能数量)について有利販売による手取り乳価の上昇に努める大詰めの交渉方針を確認し、個別交渉等については理事会に一任することとした。

2. 生乳販売計画について

当連合会が、乳製品向けの補給金の支給を受けるに当たって、農林水産省に提出する令和2年度年間販売計画については、生産者の会員組合への委託計画数量をベースに会員及び当連合会が精査を加えた生乳受託数量を284,200 t（前年実績見込み比102.8%、7,815 t 増加）と設定した。このうち、補給金対象となる乳製品向け取引数量は13,061 t（前年実績見込み比100.9%、300 t 増加）に決定した。

※前述の手取り乳価上昇部分については、増産予定乳量の約7,800 t 並びに明治岡山工場撤退後の取引中止生乳数量の約13,000 t の有利販売を進めるによる乳価上昇額は0.25～0.30円/kg、補給金については、約0.04円/kgの上昇が見込まれます。

3. 令和元年度生乳共販メリットの使途について

令和元年度の生乳共販事業におけるメリット創出額は、約30,000千円が見込まれ、その内20,000千円については、既に前年度より稼働している乳量データ収集システムの償却・保守料並びに今年度4月から稼働予定の統一乳代精算システムに係る生乳検査データ等の配信機能等の追加開発並びに共販体制の機能強化に係る費用等に充当。残金の10,000千円について、会員が生産振興に取り組む生産基盤維持拡大対策事業に仕向けることとした。このため、従来より会員の生産振興を期するための預り金（生産基盤活性化・生乳共販体制維持強化対策資金）については、共販メリットから対応する同額が不要額となることから残金として返還することとした。

なお、令和2年度の共販メリットの使途については、1) 関西方面への生乳輸送量が増えること、2) 統一乳代精算システムの償却が始まること、3) 同システムの保守料負担が新たに発生することから生乳共販事業における収支動向を見極めて検討することとした。



令和2年度事業計画について (第17回臨時総会報告)

当連合会は令和2年3月26日に第17回臨時総会を開催し(岡山県農業共済会館会議室)、2020年度(以下「今年度」)の事業計画・収支予算案並びに事業運営に係る賦課金(手数料・生乳共同販売経費)及び預り金当について審議し原案通り可決決定されました。

以下に、その結果概要を報告いたします。

1. 基本方針

酪農乳業を巡る内外情勢を踏まえ、当連合会は今年度の事業運営において、

- (i) 当面する新型コロナウイルス禍がもたらす生乳需給影響への対応。
- (ii) 今年度の受託目標数量287,112トン、104.0%の増産達成。
- (iii) 一元化した乳質評価基準を適用した個人別乳代精算システムの運用。
- (iv) 生乳の衛生確保対策としてHACCP手法を取り入れたCS管理体制の整備。等の事業に取り組むものとする。部署別の事業計画は次の通り。

2. 事業方針及び事業実施計画

(1)再生産可能な乳価の実現と乳脂肪取引基準の見直しについて

- ①今年度の乳価は据え置き決着となったが、増産基調に転じた管内生乳約8,000t並びに明治岡山工場の撤退に伴う取引数量の減少量約13,000tについて、域内外乳業者が取引している九州産生乳の減少部分との置き換えや北海道生乳との置き換えを行いながら可能な限り不需要期の余乳発生を抑制しつつ、有利販売に努め生産者の手取り乳価の上昇を図るものとする。
- ②上記取り組みによりプール乳価の上昇額は0.25~0.30円/kgを目指す。
- ③新型コロナウイルスの感染拡大防止のため政府が行った休校要請により学校給食用牛乳は供給停止を余儀なくされている。終息が見通せない状況下で今年度移行後も休校措置が継続されるようであれば、全国連並びに関係事業者との連携の下、全量処理に万全の取り組みを行う。
- ④今年度内に行う2021年度乳価交渉については、副産物価格や飼料価格等の生産費に見合う所得の補償及び働き方改革に見合う労働生産性の確保等の経営環境の改善を基本に全国の指定団体と連携した交渉に取り組むものとする。交渉期限については生乳の取引あり方検討委員会のとりまとめを踏まえ、今年12月末までの決定を念頭に置くものとする。
- ⑤引き続き乳脂肪取引基準の引き下げに係る指定団体間の意識統一及び乳業者の理解醸成を通じて実現を期する。
- ⑥農水省が定める牛乳の流通・小売市場へのガイドラインの実効を期するため不当廉売の申告活動への取り組みを継続する。

(2)生乳共販体制の維持強化

改正畜安法の下で酪農家の生乳販売に係る自由度が拡大されたことにより旧指定団体が確立した需給調整機能や組織力が低下し、生乳流通・価格の混乱の進行が懸念されている。

このため、当連合会は会員との連携を強化し組織力及び生乳掌握率の維持に努めると共に乳業者に対しては信頼関係に基づく生乳取引の安定化の達成に向け以下の事項に取り組むものとする。

- ①全国連との連携の下に一元集荷多元販売及び生乳需給調整機能の発揮に努め手取り乳価の向上に努める。

- ②生乳掌握率及び組織力の維持・強化を期するため、会員との連携を強化し生乳共販体制の運営に係る丁寧な説明を通じて生産者の理解促進に努め、生乳受託販売契約の継続的な手交及び受託数量を確保し生乳取引の安定化を図る。
- ③輸送事業を巡る厳しい環境を踏まえ、集送乳事業の安定的な運営を期するため補助事業を活用した輸送手段の再編を含めた輸送体系の見直しを図る。
- ④平成30年6月の食品衛生法の改正において、2021年6月からCS業務にHACCPの考え方を取り入れた衛生管理制度が適用に当たり必要とされる衛生管理計画の作成に取り組むものとする。
- ⑤会員段階における組織及び事業コストの抑制に資するため会員間の協業可能な事業検討に取り組む。

(3)会員と連携した指定団体業務推進計画の実行について

- ①平成30年4月稼働の乳量データ収集システムに改良を加え今年度4月より生乳検査部門と連携した希望者への検査データのメール配信を開始する。
- ②個々の生産者が中国地域内の乳質評価上の位置づけが分かるように当連合会のホームページ上に配分検査における乳質データの分布状況を表すグラフを掲載する。
- ③今年度4月から稼動を開始する乳質に係る管内統一テーブルの適用を含む統一乳代精算システムの円滑な稼働に向け、引き続き会員を通じた生産者への周知を図る。
- ④酪農現場における経営及び飼養管理技術の改善・向上を通じた管内酪農生産基盤の強化を期するため、会員、県、関係機関と連携を図り指導者の育成及び定期的な研修会及び現地指導を開催する。
- ⑤今年度より統一乳代精算システムに保守料並びに償却費用が発生することとなるが、生産者に新たな負担の増加が及ばないよう共販メリットの創出並びに生産基盤活性化資金の有効活用等によりその原資の確保に努める。

上記取り組みを通じて、会員段階における乳質改善等の指導事業の充実を期するものとする。

(4)生乳の安全安心確保対策

- ①生乳の安全安心の確保について、全国の取り組み方針や管内の進捗状況等について地域協議会及び県域協議会等を通じ関係機関で情報を共有し引続いて円滑な推進を図る。
- ②昨今の学校給食を始めとする牛乳の風味問題について、会員及び乳業者並びに行政関係機関等と連携して酪農現場における予防策及び消費者に対する風味の変遷に係る理解促進に努める。
- ③今年度からの乳質統一基準の適用に合わせて、乳質改善に係る優良・成功事例等の提供を通じて乳質基準値を下回る生乳の抑制を図る。
- ④今年度からの乳質データに基づき、成績優秀な生産者の表彰制度を設置し乳質改善並びに生産意欲の向上に資するものとする。

(5)生乳検査体制の効率化と検査項目の拡張

- ①生乳検査事業の委託先である岡山県畜産協会と連携し、生乳検査体制の効率的な運営を図る。
- ②風味問題について対応するため、乳成分値から風味変化要因を判断するFFA（乳中遊離脂肪酸）並びにBHB（乳中ケトン体）の検査結果に基づいた新たな知見としての認識と飼養管理等に関する見識を深め、生産者への普及啓蒙を図る。
- ③生乳検査精度管理認証制度に基づき、生乳検査における検査精度の維持向上に努める。

(6)受託見込み数量及び年間販売計画の設定

- ①今年度の政策価格等において乳製品向け取引数量に係る総交付対象数量は340万トン（前年度同量）、補給金8.31円/kg（前年度対比±0円）、集送乳調整金2.54円/kg（前年度対比+0.05円）が決定された。

②当連合会の今年度の受託数量は287,112トン（2019年度見込み比104.0%）が見込まれるが、補給金や集送乳調整金の配分の対象として国に提出する年間販売計画数量は、自主流通として買取事業者に販売していた生産者の受託契約見通しが遅れたため284,200トンとした。このうち補給金及び集送乳調整金の対象となる乳製品向け数量については、増産が見込まれる需給事情を背景に13,061トン（前年度見込み比100.9%）を計画数量とした。

当連合会の乳製品向け計画数量に政策価格を適用した場合、補給金と集送乳調整金の合計交付単価は全生乳換算で約0.49円／kg（前年度対比約0.03円／kg増）が想定される。

(7)第3次HOSTY生乳生産基盤復元計画の実行支援と次期計画の策定

①2018～2020年度を期間とする第3次HOSTY計画においては増産軌道を想定して2020年度には300,000トンへの復元を目指数量に設定している。

計画の最終年度となる今年度はクラスター事業を利用して規模拡大した生産者に増産が見込まれ、受託契約時における積上げ数量は292,687tとなったが、経営者の高齢化影響等による廃業がある事を考慮し284,200tに修正し年間販売計画数量として国に報告した。

その後、自主流通として買取事業者に直接販売していた生産者が今年度から組合への出荷に戻ることとなった事から今年度期首時点においては287,112トンを受託見込み数量としている。

②Jミルクの行う酪農乳業産業基盤強化特別対策事業は今年度から5年間の継続実施が決定した。

当連合会も生乳生産基盤活性化対策資金から30,000千円を充当した生産基盤維持拡大対策事業を継続実施し、会員が行う基盤対策事業と併せて乳牛資源の確保対策を推進するものとする。

③第3次HOSTY計画の最終年度にあたる今年度は3年後となる2023年度の目標数量及び振興対策を骨格とする第4次HOSTY生乳生産基盤復元計画を策定する。

(8)消費拡大事業関連

①国産牛乳・乳製品の価値訴求を通じて需要の安定確保を期するため会員との連携による消費拡大活動を展開する。

②(一社)中酪が所管する理解促進地域広報事業（ミルクジャパン、酪農教育ファーム）を通じて消費者及び流通・小売業界への情報発信等の酪農理解醸成活動に取り組む。

③会員の実施する酪農理解醸成イベント等の支援を行う。

④牛乳・乳製品の知識普及と消費促進に資するため、当連合会主催による牛乳・乳製品料理コンクールを実施する。

(9)総務及び広報機能の強化

ア) 財務及び業務推進体制の強化

①組織・財務強化を期するため経費節減等を通じ業務の合理化に努める。

②乳業を巡る厳しい経営環境を踏まえ、取引先乳業者への信用調査の実施、保証金及び担保の差し入れ等の債権保全措置の拡充を履行する。また、当連合会自らも取引に係る不測の事態を想定し貸倒引当金の積み増しに努める。

③預り金、拠出金の適正管理に努める。

イ) 全国連及び会員組織からの出向職員の派遣を受け生乳共販体制の拡充及び統一乳代精算システムの運用馴致、更には税制改革による2023年度からのインボイス制度導入に向けた正確な対応と円滑な移行を期する。

ウ) 役職員の教育等基本方針

①コンプライアンス遵守と内部管理体制の充実を図る。

②専門的な知識習得のため各種研修会へ参加し、人材の育成を図り業務推進体制の強化を図る。

工) 後継者の確保に資する対策

酪農後継者育成対策の一環として中国四国酪農大学校への継続的な運営支援を行う。

才) 情報連絡・広報機能の強化

- ①当連合会の組織及び生産基盤の強化を期するため行政機関及び関係団体との連絡調整を図る。
- ②当連合会の組織及び事業運営への理解促進を期するため機関紙（中販連だより）の発行やホームページにおける情報開示等の広報機能の強化に努める。

(10)補助事業の適正運営

当連合会が実施主体となる指定助成事業を始めとする補助事業について会員組織の参加意向を踏まえた取組を図るとともに、適正な運営に努める。

令和2年度損益計算書

(単位:千円)

科 目	金額		
1 事業総利益			88,396
(1)販売事業収益		1,826,126	
販売手数料	74,649		
全国連手数料	30,148		
共販事業収益	1,655,774		
生乳検査受託料	65,555		
(2)販売事業費用		1,737,730	
全国連手数料	30,148		
共販事業費用	1,650,983		
生乳検査委託料	56,599		
2 事業管理費			92,464
(1)人件費		58,632	
(2)業務費		19,368	
(3)諸税負担金		6,300	
(4)施設費		24,460	
(5)他勘定振替(システム償却費等相当)		-16,296	
(6)貸倒引当金繰入		0	
事 業 利 益			-4,068
3 事業外収益			144,760
4 事業外費用			140,500
事 業 外 利 益			4,260
経 常 利 益			192
5 特別利益			0
6 特別損失			0
税引前当期利益			192

2020年度(令和2年度)生乳受託販売事業に係る負担経費等

1. 中国生乳販連の組織運営に係る経費

(1)中国生乳販連の組織運営費 (A) 【前年度同単価】

……生乳受託販売手数料

(2)生乳共販に係る業務運営費 (B) 【前年度同単価】

……生乳受託販売経費(集乳経費、送乳経費、CS経費、生乳検査経費)及び全国連再委託手数料

項目名	単価(円/kg)	前年比	対象用途	運用内容等
A 中販連販売手数料	0.260	±0	全生乳	組織運営に係る経費 (H21.10.1改正 0.1円引上)
5 員 販 売 經 費	集乳経費	3.113	±0	全生乳 会員への業務委託により輸送業者に支払い (H31.4.1改正 0.2円引上)
	送乳経費	1.914	±0	全生乳 中販連が輸送業者に支払い (H31.4.1改正 0.3円引上)
	CS経費	0.740	±0	全生乳 中販連指定のCSを所有する会員等に支払い (H31.4.1改正 0.1円引上)
	生乳検査経費	0.140	±0	全生乳 岡山県畜産協会(検査委託先)に支払い
	全国連手数料	実費精算	実費精算	全生乳 中販連が再委託した生乳代金の0.3% 全生乳換算(試算値)：令和元年9月末実績÷0.099円/kg
	B 小計	÷6.006	+0.006	全生乳 想定経費※：5.907+0.099÷6.006円 ※令和元年9月末実績の全国連手数料を適用して試算

参考 A+B：全生乳換算(試算値) = 6.266円/kg……………①

(注) 消費税の取り扱い：A及びBは外税。

2. 中国生乳販連が会員と連携して取り組む生乳生産基盤並びに生乳共販体制の維持強化対策、生乳需給変動対策、自然災害対策及び酪農理解醸成活動等の事業に係る経費

(1)生産基盤活性化対策・生乳共販体制維持強化対策資金の運営 (C) 【前年度同単価】

- ………… ⑦生産基盤維持・拡大への対応
- ………… ⑧生乳共販体制の維持強化への対応
- ………… ⑨需給変動への対応
- ………… ⑩自然災害時の見舞金制度

(2)酪農理解醸成活動事業への取組 (D) 【前年度同単価】

項目名	単価(円/kg)	前年比	対象用途	運用内容等
C 生 產 基 盤 活 性 化 ・ 生 乳 共 販 體 制 維 持 強 化 對 策 資 金 (H30年度名称変更)	(0.120)	±0	全生乳	生産基盤維持拡大対応、生乳共販体制維持強化並びに生乳需給変動対応 (生産基盤対策維持拡大対応予算に毎年3,000万円)
	(0.050)	±0	全生乳	自然災害による生乳廃棄に対する見舞金制度 (R1年度 上期見舞金単価：税込108.0円/kg、同下期単価：税込110.0円/kg)
生産基盤活性化・生乳共販体制維持強化対策資金	0.170	±0	全生乳	平成23年9月28日上記2事業への分離を制定
酪農理解醸成活動事業	0.050	±0	飲用等向け※	乳価値上げへの理解訴求及び牛乳需要喚起等に係る経費 平成26年度より新規(÷全生乳換算0.048円/kg)

参考：全生乳換算(試算値) = 0.218円/kg……………②

(注) 消費税の取り扱い：C及びDは内税。

中販連預り金(C, D)については、年度終了後に未使用金を返還する。

(注) 季節別乳価対策は2019年度の運用から廃止。

3. 中央団体が行う全国の酪農組織が連携して取り組む事業への拠出 ……中央酪農会議並びにJミルク（日本酪農乳業協会）への拠出金

(1) 中央酪農会議拠出分 【前年度同単価を仮置き】

項目名	単価(円/kg)	前年比	対象用途	運用内容等
E 需給調整機能強化 全国支援事業	0.010	±0	全生乳	生乳供給情報システムサーバー維持・保守等
F 牛乳消費促進対策事業	0.100	±0	飲用等向け	「MILK・JAPAN」事業。△全生乳換算0.096円/kg
G 酪農理解促進広報事業	0.040	±0	全生乳	酪農教育ファーム関連活動及び消費者交流等、 及びミルククラブ等を通じた情報発信
H BSE対策及び残留 農薬対応酪農互助基金	0.010	±0	全生乳	ポジティブリスト管理物質定期的検査における被害農家の 損害補填、BSE発生農家への経営継続等

参考：全生乳換算（試算値）△0.156円/kg……………③

(注) 消費税の取り扱い：E、F、G及びHは内税。

(2) Jミルク拠出分 【前年度同単価を仮置き】

項目名	単価(円/kg)	前年比	対象用途	運用内容等
I 飲用等向け	0.050	±0	飲用等向け	△全生乳換算0.048円/kg
J 乳製品向け	0.020	±0	乳製品向け	△全生乳換算0.001円/kg

参考：全生乳換算（試算値）△0.049円/kg……………④

(注) 消費税の取り扱い：I及びJは内税。

4. 酪農政策施行に係る積立金の拠出金（事業参加者のみ） 【前年度と同単価を仮置】

項目名	単価(円/kg)	前年比	対象用途	運用内容等
K 加工原料乳等生産者 経営 安定対策	0.200	±0	乳製品向け (事業参加者 のみ)	加工原料乳価格の低落時における補填基金事業。 任意加入。

参考：契約者全生乳換算（R1上期実績）△0.007円/kg……………⑤

(注) 消費税の取り扱い：Kは不課税 ◎本事業に係る積立金は毎月内示、拠出は四半期単位。

5. 控除・拠出金合計

控除実行の対象項目・単価及び対象用途等：A、B、C、D、F、G、H、I、J

<参考> 全生乳換算合計（試算値） ①+②+③+④△6.689円/kg

*全生乳換算（試算値）は全て令和元年9月末までの実績値で試算

*対象用途の説明 …………… 《飲用等向け》：飲用牛乳（含・学乳）+醸酵乳
《乳製品向け》：加工+チーズ+生クリーム

*上記2項及び3項の消費税の取り扱いは、何れも内税となります。



乳質検査(配分・依頼)結果配信システムについて (RAKUNYU+(ラクニュウプラス)の概要説明)

はじめに

中販連だよりVol.55（平成31年1月31日発行）に既述のとおり、令和2年4月分より統一乳質評価基準（乳成分加減算テーブルと衛生的乳質加減算テーブル）を用いた加減算単価の算出による中国地域全会員の乳質評価の統一を実施します。

ここでは、上記の乳質評価の統一に伴い、乳質検査結果（配分検査・依頼検査）を迅速に配信するシステム（RAKUNYU+）を作成しましたので、ご紹介します。なお、利用方法等の詳細につきましては、所属の組合へお問い合わせください。

本システムの名前は、ラクニュウプラス（RAKUNYU+）です。

インターネットに接続する環境があれば無料（通信費用は別途必要）でパソコンや携帯電話（スマートフォン、タブレット）を使って、①乳質検査情報や乳価情報（統一テーブルによる旬毎の加減算単価）を閲覧すること、②動物用医薬品・乾乳軟膏の使用履歴の入力等を行うことなどが可能となります。

ご利用にあたりましては、指定のURL（情報がどこにあるのかを示すインターネット上のアドレス）、ログインIDとパスワードが必要となりますので所属の組合へお問い合わせください。なお、付与されたログインIDとパスワードは、個人情報となりますので大切に保管してください。

②乳質情報や乳価情報はログインした方の情報のみが閲覧可能となります。

「農家用」RAKUNYU+システムの基本操作

（1）乳質検査結果：

検査結果履歴ではデータ閲覧やデータをダウンロードすることができます。

また、メール配信希望者には、当連合会から配信しましたメールに結果を確認したボタンURL（下図参照）が付いておりますので、それをクリックすることにより確認した日時がデータベースに記録として残ります。これにより抗生物質確認検査等で確認日時を残すことが可能となります。

メール配信は一戸で5名まで複数の登録が可能です。

確認されましたが下記のURLにアクセスしてください。

<https://rakunowa.com:443/aa7tq28s/Nouka/Confirm.aspx?token=e777283ae1e140718e4e2ddc89775ac1>

メールについているURLをクリックすると確認日時が記録されます。

（2）乳価情報：

乳価加減算履歴（旬毎の加減算単価）が確認できます。ただし、乳量や検査の結果が確定するまで検査後10日程度かかります。

（3）動物用医薬品・乾乳軟膏の使用履歴の入力：

動物用医薬品・乾乳軟膏などを使用した履歴を入力することができます。

これによりチェックシートに記入する内容を入力することができますので、メール配信希望者は、上記①のメール確認日時と併せてチェックシート記入と同様の内容を印刷することや治療履歴として残すことも可能です。

1. システムを使用するには

指定したURLをインターネットブラウザに登録してください。

パソコンや携帯電話でも利用可能です。

画面上に作成されたRAKUNYU+のアイコンをダブルクリック、またはタップするとシステムが起動します。システムが起動するとログイン画面が表示されます。

ログイン画面でID、パスワードを入力し、ログインボタンをクリックします。



2. メニュー画面で作業を選択

メニュー画面が表示され、システムが使用できるようになります。

RAKUNYU+メニューカテゴリーをクリックすると画面名が表示され、画面名をクリックすると、対象の画面が表示されます。



3. 共通処理

画面上の一般的なコントロール（入力項目、選択項目）や、CSV出力処理について説明します。入力項目、選択項目入力項目、選択項目にはいくつかの種類があり、それぞれ色や形が違います。

【入力項目】		ピンク色の入力項目、選択項目は、入力・選択が必須となっている項目です。何らかの文字を入力・選択しなければ、データを更新することができません。
【入力項目】		白色の入力項目、選択項目は、任意の入力・選択項目です。必ずしも入力・選択する必要はありません。
【選択項目】	<input checked="" type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	四角い選択項目は、複数の項目を選択することができます。
【入力項目】		日付用の入力項目です。 西暦年／月／日形式で入力してください。 右の青いボタンをクリックするとカレンダーが表示されます。 そこで日付をクリックして、日付入力することもできます。

*携帯電話（スマートフォン、タブレット）でも確認できますが、画面を横にするなどしてサイズを調整してください。

4. 検査結果履歴

メニューから「通常業務」を選択し、「検査結果履歴」をクリックして画面を開きます。検索する検査結果データを絞りこむために、検査種別（配分・依頼）を指定し検査日を指定して検索ボタンをクリックします。

※ログイン農家の検査結果のみ抽出されます。

検査日	検査種別	検査区分	個体番号	分房	脂肪 (%)	蛋白 (%)	乳糖 (%)	無脂固形 (%)	全脂 (%)	原
2020/03/02	3:依頼	細菌検査以外	101	1:右前	3.61	3.40	4.69	8.94	12.55	

5. 乳価加減算履歴

この画面では、乳価加減算データを検索します。メニューから「通常業務」を選択し、「乳価加減算履歴」をクリックして画面を開きます。検索する乳価加減算データを絞りこむために、年月を指定し検索ボタンをクリックします。

乳成分テーブル単価（固定のテーブル単価と再配分するゾーン単価で構成）と衛生的乳質テーブル単価（ゾーン単価のみで構成）が表示され、毎月旬毎に単価が計算されますのでご確認ください。
※ログイン農家の乳価加減算データのみ抽出されます。

年 月	脂肪上旬	無脂固形上旬	体細胞上旬	細菌上旬	乳成分テーブル単価上旬	乳成分ランク上旬	乳成分ゾーン単価上旬	衛生テーブル単価上旬	衛生ランク上旬	衛生ゾーン単価上旬
2020/4/1	3.99	3.99	47	5	2.9	S	0.04	0	S	0.38

6. 医薬品・軟膏使用入力

医薬品・軟膏使用の入力は任意です、入力したデータは投与記録として印刷することができます。

入力項目	説 明
投与区分	動物医薬品・乾乳軟膏に区別して入力してください。
投与記録No	投与記録番号で検索し追記修正することができますので、任意の番号を入力して表示・検索・新規ボタンを押してください。

医薬品・軟膏使用入力

メニュー

投与区分 動物用医薬品

投与担当No.

初回治療日: 2015/12/01 時間: 04:00

治療牛コード: 0005

マーキング有り:

診療記録・指示書有り:

指示書No:

病名: 乳房炎

治療方法:

治療方法名:

治療分房: 左前 右前 左後 右後

使用薬剤No: 10009

使用薬剤名: 薬品A

主乳出荷禁止期間: 0

肉出荷禁止期間: 60

初回検査日: 2015/12/01

最終治療日:

サンプルNo:

残留確認検査日:

出荷日:

備考:

入力項目	説明
初回治療日	初回治療日を入力します。治療時間を選択します。
治療牛コード	治療牛コードを入力します。
マーキング有り	マーキングが有る場合、チェックを入れます。
診療記録・指示書有り	診療記録・指示書がある場合、チェックを入れます。
指示書No	指示書Noを入力します。
病名	病名を入力します。
治療方法	治療方法を選択します。
治療方法名	治療方法名を入力します。 ※治療方法で「その他」選択時のみ入力可能です。
治療分房	治療分房にチェックを入れます。 ※複数選択可能です。
使用薬剤No	使用薬剤Noを入力します。 右側の「表示」ボタンをクリックすると、入力した使用薬剤Noの薬剤名を表示します。 右側の「検索」ボタンをクリックすると、動物用医薬品検索画面が表示されます。 選択した医薬品の医薬品コードと医薬品名を、医薬品・軟膏使用入力画面に表示します。
使用薬剤名	使用薬剤名を入力します。
分娩日	分娩日を入力します。
生乳出荷禁止期間	生乳出荷禁止期間を時間単位で入力します。
肉出荷禁止期間	肉出荷禁止期間を日単位で入力します。
初回検査日	初回検査日を入力します。
最終治療日	最終治療日を入力します。 最終治療時間を選択します。
サンプルNo	サンプルNoを入力します。
残留確認検査日	残留確認検査日を入力します。
出荷日	出荷日を入力します。
備考	備考を入力します。

7. 動物医薬品投与履歴の検索

投与区分：動物医薬品・乾乳軟膏に区別して入力してください。

投与記録Noと初回治療日で検索することができます。

抽出件数 4件						
農家コード	農家名	投与区分	初回治療日	治療牛コード	初回検査日	最終治療日
111111	酪農 太郎	動物用医薬品	2015/09/28	0001	2015/10/02	2015/10/08
111111	酪農 太郎	動物用医薬品	2015/09/04	0002	2015/09/01	
111111	酪農 太郎	動物用医薬品	2015/09/05	0003	2015/09/04	
111111	酪農 太郎	動物用医薬品	2015/09/03	0004	2015/09/04	

8. 帳票印刷画面

この画面では、動物医薬品等の投与記録と乾乳軟膏の使用記録の印刷を行います。

メニューから「帳票」で出力する種類を選択します。

記録日を範囲指定してPDFボタンを押してください。

下記の帳票動物医薬品等の投与記録や使用記録は、定期的に印刷することをお勧めします。

動物用医薬品等の投与記録

2020年4月8日 14:50 Page. 1

農家名: テスト農家

記録月日 (初回治療)	治療牛コード/号 (投与群)	マーキング 等の実施	出荷できない 期間 初回検査日	最終治療 月日	残留確認検査 (陰性検査日) サンプルNo.	出荷日	診療記録・ 指示書の有無 指示書No.
病名	使用薬剤	治療方法		治療分房		備考	
2020年4月1日 午前 8 時	No. 5678	有	生乳 72 時間 肉 3 日間 2020年4月11日	2020年4月8日 午前 8 時	2020年4月11日 No. 56789	2020年4月11日	有 No. 345
乳房炎	セファメジンS	注入		<input type="checkbox"/> 左前 <input checked="" type="checkbox"/> 右前 <input type="checkbox"/> 左後 <input type="checkbox"/> 右後			
2020年4月6日 午前 8 時	No. 4567	有	生乳 60 時間 肉 3 日間 2020年4月16日	2020年4月13日 午前 8 時	2020年4月16日 No. 56789	2020年4月16日	有 No. 36547
乳房炎	セファメジンZ	注入		<input checked="" type="checkbox"/> 左前 <input type="checkbox"/> 右前 <input type="checkbox"/> 左後 <input type="checkbox"/> 右後			

乾乳軟膏の使用記録

2020年4月8日 14:51 Page. 1

農家名: テスト農家

使用日	治療牛コード/号 (投与群)	マーキング 等の実施	分娩日	残留確認検査 (陰性検査日) サンプルNo.	生乳 出荷日	薬剤名
2020年2月3日	No. 4567	有	2020年4月8日	2020年4月13日 No. 23456	2020年4月13日	セファメジンDC

システムを終了するにはメニュー画面の右上のログアウトボタンをクリックします。

おわりに

今回ご紹介しましたシステムは、国事業の生乳流通体制合理化推進事業を活用しICT「情報伝達技術」を駆使して、乳質情報や乳価情報等を迅速に知ることが可能となります。

システムは「農家」用と「組合」用に分かれており「組合」用につきましては、検査結果で乳成分や衛生的乳質などが閾値を超えると、予め設定した担当地域の指導者へメールが発信されるなどの仕組みもあり、今後の乳質指導を適時的確に実施していくためのアイテムになると思います。

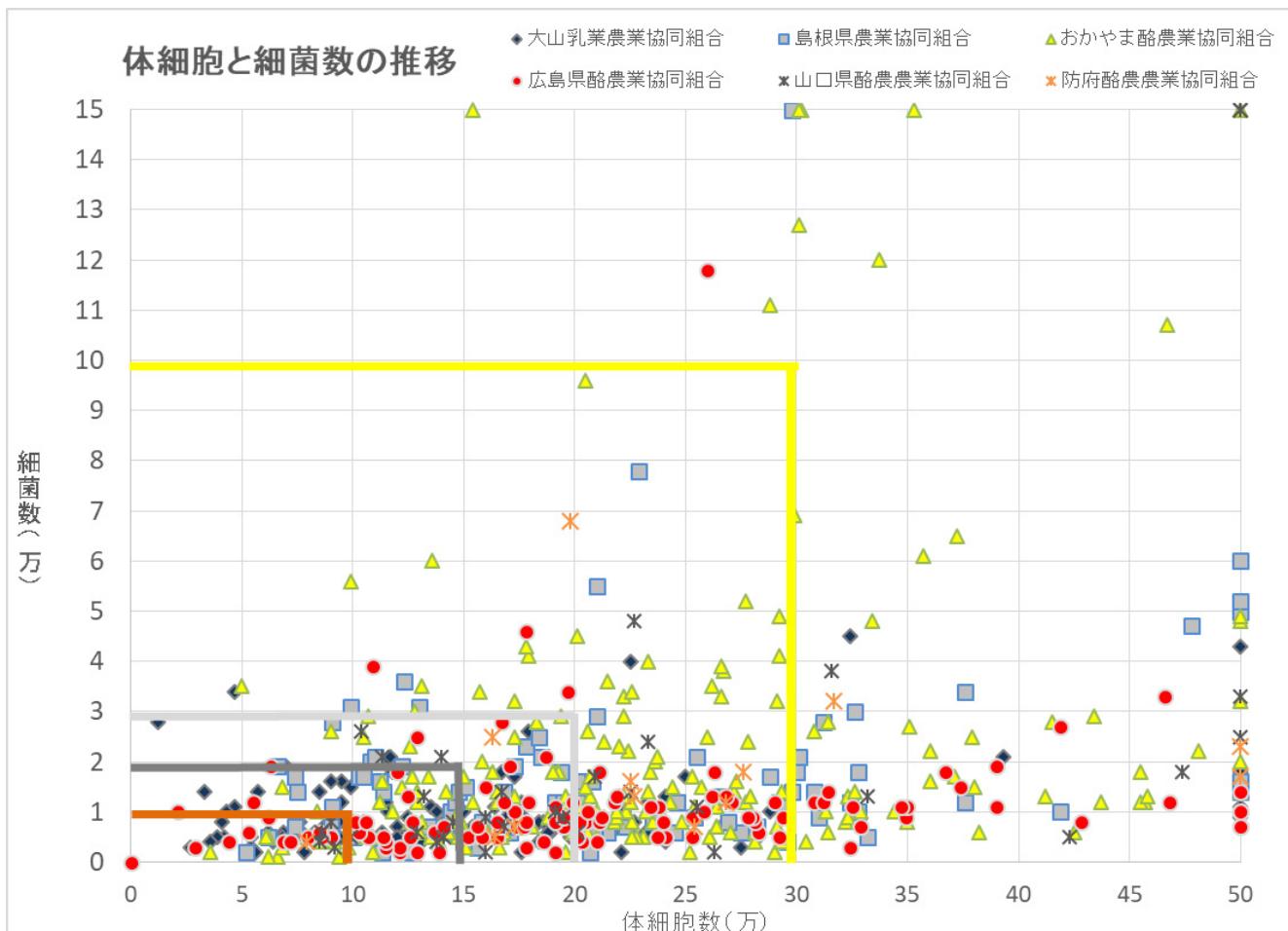
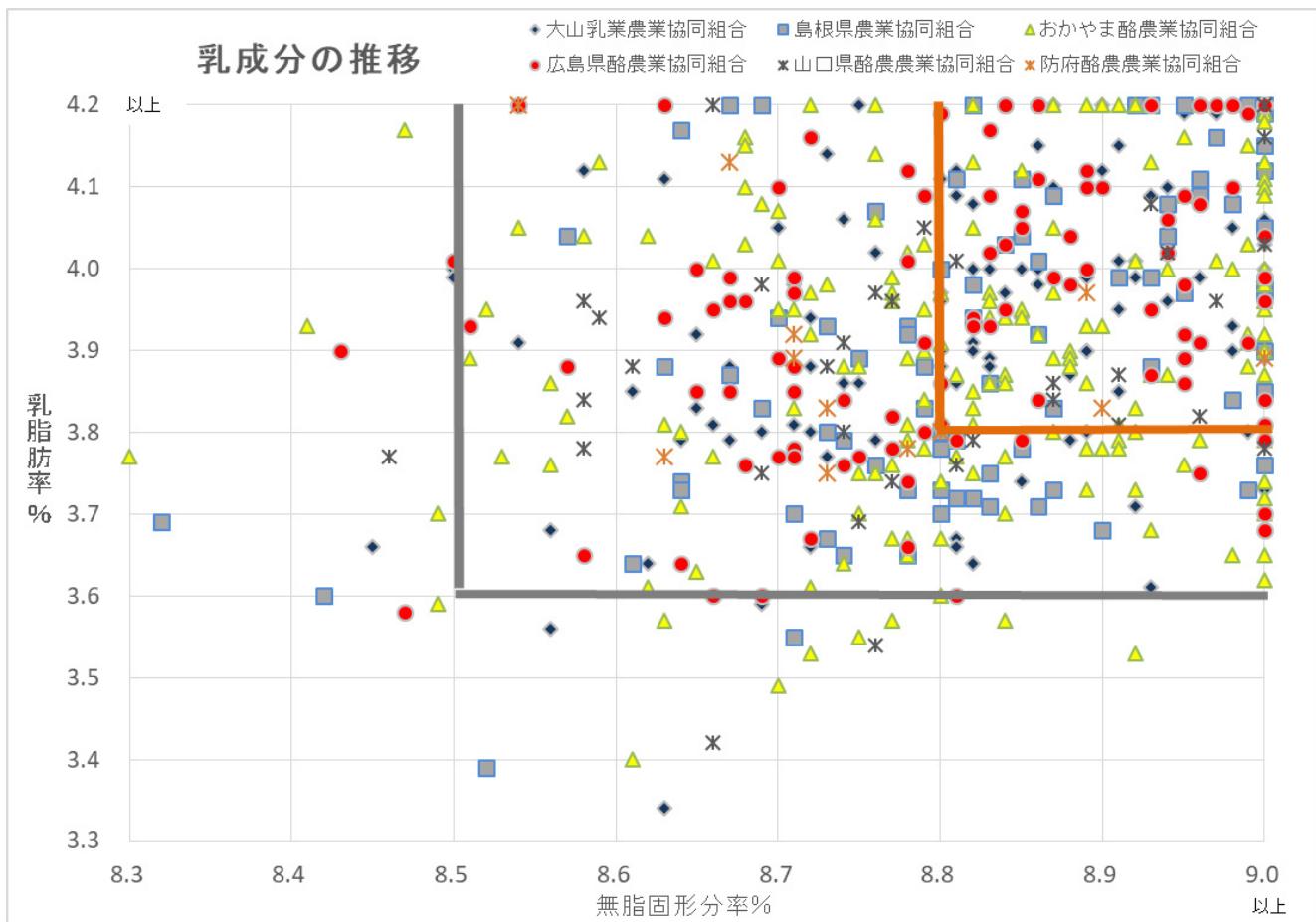
また、当連合会のホームページ上に配分検査における乳質データの分布状況を表すグラフを掲載する予定です（掲載例p20参照）。是非アクセスしてみてください。

中国生乳販連

検索

<https://www.dairy.co.jp/chugoku/>

乳成分及び衛生的乳質の推移 2020/03 下旬



良質生乳出荷者表彰制度が開始されます

令和2年4月より実施されました統一乳質評価と同時に、年間を通じて良質な生乳を出荷して頂いた方を表彰する制度が始まりました。

その内容につきまして「良質生乳出荷者表彰要領」より抜粋して、ご説明致します。

1. 目的：

我が国酪農は、日欧EPAやTPP11、日米貿易協定が次々と発効され、牛乳乳製品の自由貿易が加速的に進む状況下にあって、国産の牛乳乳製品の高付加価値化に伴う差別化が急務となっている。加えて、国民の安全・安心に対する関心の高まりに応える取り組みも求められている中で、中国生乳販売農業協同組合連合会（以下、本会という）では、良質な生乳を安定的に乳業者に供給することで有利販売に繋げ、酪農経営の安定を図りながら乳質の向上と生産意欲の高揚を図る事を目的として、年間を通じた良質乳出荷者を表彰する。

2. 主催：本会

3. 対象期間：毎年4月1日～翌年3月末日までの1年間を対象とする。

4. 生乳の検査：毎月3回（年間36回）検査を基に表1の配点方法で計算する。

複数のバルククーラーを保有する場合は、加重平均値を計算し採用する。

5. 審査基準：

- (1)表1による部門を分け、配点方法に基づき計算する。
- (2)得点が同点の場合は、出荷乳量の多い生産者を上位とする。
- (3)審査にあたって以下に該当する場合は、表彰対象者とはしない。
 - ・ 環境と調和の取れた農業生産活動規範を遵守していない場合。
 - ・ 生乳生産管理チェックシートの記帳において重要管理点に未記入などの不備がある場合。
 - ・ 対象期間において受託不可能乳の発生について原因者となった場合。

6. 表彰：

- (1)審査委員会の選考に基づき、成績上位者に対し褒賞の品名及び、賞金が授与される。
 - ①最優秀賞 各部門1名 良質生乳出荷者記念パネル及び10万円(公共部門は記念パネルのみ)
 - ②優秀賞 各部門1名 良質生乳出荷者記念パネル及び7万円(公共部門は記念パネルのみ)
 - ③優良賞 各部門上位概ね8名程度の生産者
「20●●年優良生乳生産牧場」ステッカー等作成して配布
- (2)本会通常総会時に最優秀賞受賞者に出席していただき表彰する。

[表1]

1. 表彰部門の区分

部門(表彰人数)	表彰対象部門
1部～4部(各部上位25名)	ホルスタイン部門
5部(上位2名)	ジャージー部門
6部(上位1名)	高校・大学校部門
合計28名	

ホルスタイン部門の内訳(年間出荷乳量での区分)

部門(表彰人数)	年間出荷乳量区分
1部(上位10名)	250 t 未満
2部(上位7名)	250 t 以上～500 t 未満
3部(上位5名)	500 t 以上～1,000 t 未満
4部(上位3名)	1,000 t 以上
合計25名	

2. 配点方法

年間36回の検査結果でポイントを計算しその累積で順位付ける。

◆ホルスタイン部門 高校・大学校部門

配点区分	ポイント	検査結果
①成分Sゾーン	65	FAT3.8%以上でSNF8.8%以上
②成分Aゾーン	35	FAT3.6%以上でSNF8.5%以上
③衛生Sゾーン	50	体細胞数10万未満で細菌数1万未満
④衛生Aゾーン	30	体細胞数15万未満で細菌数2万未満
⑤衛生Bゾーン	20	体細胞数20万未満で細菌数3万未満

◆ジャージー部門 (中国四国酪農大学校ジャージーも含む)

配点区分	ポイント	検査結果
①成分ゾーン	65	FAT5.1%以上でSNF9.3%以上
②成分ゾーン	35	FAT4.5%以上でSNF9.0%以上
③衛生Sゾーン	50	体細胞数10万未満で細菌数1万未満
④衛生Aゾーン	30	体細胞数15万未満で細菌数2万未満
⑤衛生Bゾーン	20	体細胞数20万未満で細菌数3万未満

1. 生乳受託実績の推移

(単位: t、%)

R1実績	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	合計	構成比	戸数
大山乳業	15,067	14,165	14,739	15,675	59,648	21.5%	113
内農家	14,932	14,057	14,620	15,550	59,158	(99.2%)	110
内公共	136	108	119	126	489	(0.8%)	3
JA島根	16,901	16,243	16,717	17,966	67,827	24.5%	88
内農家	16,839	16,193	16,674	17,912	67,617	(99.7%)	86
内公共	62	50	43	55	210	(0.3%)	2
おか酪	22,921	21,611	23,174	24,723	92,428	33.4%	201
内農家	22,450	21,152	22,697	24,235	90,534	(98.0%)	197
内公共	471	459	477	488	1,894	(2.0%)	4
広島県酪	10,894	10,515	10,285	10,595	42,289	15.3%	114
内農家	10,730	10,373	10,122	10,440	41,665	(98.5%)	110
内公共	165	142	163	155	625	(1.5%)	4
山口県酪	2,606	2,279	2,362	2,483	9,731	3.5%	34
内農家	2,588	2,264	2,348	2,469	9,669	(99.4%)	32
内公共	18	15	14	14	62	(0.6%)	2
防府酪農	1,310	1,232	1,288	1,323	5,154	1.9%	13
内農家	1,269	1,191	1,235	1,274	4,969	(96.4%)	12
内公共	42	41	53	49	185	(3.6%)	1
中販連計	69,700	66,045	68,565	72,767	277,077	100.0%	563
内農家	68,807	65,229	67,697	71,879	273,612	(98.7%)	547
内公共	893	816	868	888	3,465	(1.3%)	16

前年比	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	合計
大山乳業	103.9%	101.8%	101.2%	104.2%	102.8%
内農家	103.8%	101.9%	101.1%	104.3%	102.8%
内公共	116.1%	97.0%	113.5%	93.6%	104.5%
JA島根	97.5%	101.6%	103.3%	109.4%	102.9%
内農家	97.5%	101.6%	103.4%	109.5%	102.9%
内公共	93.2%	86.2%	78.3%	87.9%	86.8%
おか酪	95.3%	99.7%	105.7%	107.0%	101.8%
内農家	95.1%	99.6%	105.7%	107.0%	101.8%
内公共	105.9%	102.3%	105.7%	105.6%	104.9%
広島県酪	92.7%	94.6%	96.1%	98.3%	95.4%
内農家	92.3%	94.7%	96.2%	98.5%	95.4%
内公共	130.9%	85.7%	92.3%	88.8%	97.2%
山口県酪	98.0%	95.1%	96.8%	98.7%	97.2%
内農家	97.7%	94.8%	96.8%	98.6%	97.0%
内公共	175.3%	185.8%	111.3%	106.5%	138.5%
防府酪農	95.5%	96.4%	99.3%	100.2%	97.8%
内農家	95.0%	96.4%	99.0%	100.4%	97.7%
内公共	112.5%	95.8%	105.6%	94.5%	101.5%
中販連計	97.2%	99.5%	102.2%	105.2%	101.0%
内農家	97.1%	99.5%	102.2%	105.3%	101.0%
内公共	111.4%	97.7%	102.2%	98.7%	102.3%

※実績値は、令和1年度・30年度共に農家発乳量を使用。
また共に5県の公共機関を含む。

2. 用途別販売実績の推移

(単位: t、%)

R1実績	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	合計	構成比
飲用向	45,512	45,581	45,126	49,320	185,539	67.0%
学乳向	5,809	3,796	6,430	4,254	20,289	7.3%
醸酵乳向	14,934	14,892	13,974	13,831	57,631	20.8%
生クリーム向	935	784	1,057	1,061	3,838	1.4%
チーズ向	95	106	102	85	388	0.1%
加工向	2,416	885	1,875	4,216	9,392	3.4%
合 計	69,700	66,045	68,565	72,767	277,077	100.0%

前年比	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	合計
飲用向	98.0%	97.6%	101.1%	108.5%	101.2%
学乳向	92.9%	115.5%	100.2%	73.9%	93.4%
醸酵乳向	96.2%	101.0%	105.1%	102.9%	101.1%
生クリーム向	87.6%	96.1%	107.7%	90.3%	95.0%
チーズ向	89.7%	106.0%	104.3%	97.4%	99.3%
加工向	106.3%	118.2%	112.4%	129.4%	118.2%
合 計	97.2%	99.5%	102.2%	105.2%	101.0%

※実績値は、令和1年度・30年度共に農家発乳量を使用。
また共に5県の公共機関を含む。

※農家発乳量とメーカー着乳量の差分は飲用向けで調整。

3. 生乳需給実績の推移（域内・域外比率） (単位：%)

R1実績	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	合計
域内需要	93.5%	94.0%	92.6%	86.4%	91.5%
域外需要	6.5%	6.0%	7.4%	13.6%	8.5%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
前年比	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	合計
域内需要	97.2%	99.8%	100.9%	97.7%	98.9%
域外需要	97.1%	95.6%	122.3%	203.3%	131.6%
合計	97.2%	99.5%	102.2%	105.1%	101.0%

※受託生乳について域内需要と域外需要の実績比率。

4. 基準乳価の推移

(単位:t、円/kg)

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	合計
R 1	受託乳量(t)	69,700	66,045	68,565	72,767
	基 準 乳 価	114.4844	114.5944	114.5960	113.1090
	成 分 加 算	2.1557	1.7822	2.5177	2.6841
	補 給 金 等	0.5425	0.2904	0.4842	0.7970
	合 計 (a)	117.1826	116.6670	117.5979	116.5901
H 30	受託乳量(t)	71,682	66,376	67,108	69,185
	基 準 乳 価	111.1528	110.9589	111.3337	110.4485
	成 分 加 算	2.2142	1.8540	2.6379	2.6893
	補 給 金	0.5125	0.2710	0.4421	0.7056
	合 計 (b)	113.8794	113.0839	114.4138	113.8434
前年との比較(a-b)	3.3032	3.5831	3.1841	2.7467	3.1983

※実績値は、令和1年度・30年度共に農家発乳量を使用。また共に5県の公共機関を含む。

※※表1から表4の各実績表において、端数処理により合計不一致の箇所あり

発行 ● 中国生乳販売農業協同組合連合会
編集・発行人 ● 澤井正史
〒700-0984 岡山県岡山市北区桑田町一番二〇号 岡山県農業共済会館四階

FAX TEL ○八六一三六一三三七一
○八六一三六一三三七一
URL http://www.dairy.co.jp/chugoku/

▼事業経過報告（令和二年一月～三月）

31日	26日	19日	13日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	3月	26日	25日	21日	14日	7日	4日	3日	2月	29日	28日	27日	24日	23日	22日	21日	14日	13日	12日	11日	10日	9日
<td